

資産分析・可視化サービス for アプリケーション資産

ソリューション概要のご紹介

資産分析・可視化サービス for アプリケーション資産

「資産分析・可視化サービス for アプリケーション資産」は、モダナイゼーションの準備として、現行のお客様の情報システム資産を詳細に調査・分析するサービスです。

1.資産の全体把握

富士通独自技術によって、既存資産のアプリケーション構造を分析し、プログラム単位の複雑さやプログラム間の関係性などのアプリケーション特性を地図形式で表現します。これにより、ブラックボックス化しているアプリケーション全体の複雑化・肥大化の状況を把握します。

ソフトウェア地図分析



高いビルが集まっているエリア

複雑なプログラムが密集しており
保守性が悪い



複数の色が入り乱れているエリア

異なる機能のプログラムが
混ざっており保守性が悪い



整然とした低いビルのエリア

機能の範囲が定まっており
保守しやすい状態にある

【凡例】

- ビル（建物）：プログラム
- ビルの高さ：プログラムの複雑さ
- 色：サブシステムの種類
- ビル間の距離：プログラム間の関係性

2.資産のスリム化・最適化

資産全体を属性（オンライン/バッチ）や機能ごとに整理して、それらの状態（不足・重複・使用/未使用・規模）を明らかにします。

また、資産1本1本を全比較し、資産ごとに他の資産との類似度を調査します。

解析結果に基づき、資産の統合・共通化をお客様とともに解決し、資産の明確化・スリム化を図ります。



稼働資産分析・類似分析

稼働資産分析

資産の呼び出し関係を元に使われていないプログラムを明確にします。

未使用資産を整理

使用されていない資産の削減

類似分析

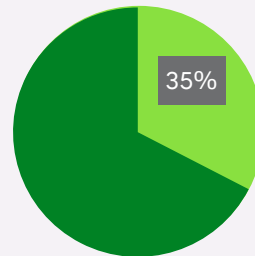
プログラムを総当たりで比較分析することで、ソースコードレベルで類似性を判定します。

重複した資産の正本を特定

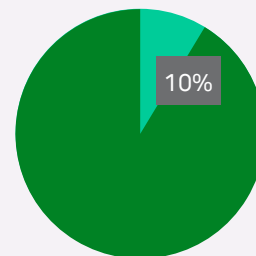
重複した資産の削減

資産の
スリム化
最適化

未稼働資産率※



類似資産率※



※当社実績から算出した割合：
平均未稼働資産率：35%、平均類似資産率：10%

3.資産の移植性評価（メインフレームのみご提供）

既存アプリケーション資産が利用しているメインフレーム機能を洗い出し、オープンシステムへ移植する際の課題箇所の調査や移植性難易度を評価します。

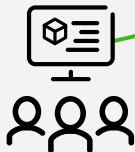
同時にオンライン機能、複雑なNDB階層パターンのDB処理機能など、移植性の難易度を大きく左右するメインフレーム独自機能も対象として調査します。



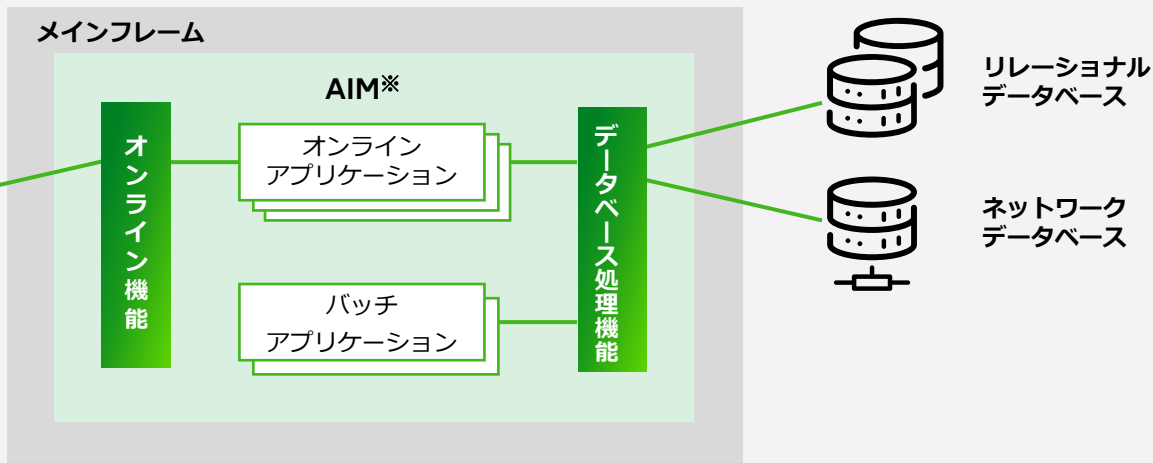
ホスト利用機能調査

主な調査内容

- DBの調査
- オンライン方式の調査
- JCL利用機能の調査



メインフレームの豊富なノウハウを持ったエンジニアが、独自ツールを併用して調査・評価を実施



※AIM : Advanced Information Manager

更に詳しい情報はこちら



資産分析・可視化サービス for アプリケーション資産の詳しい情報を ご確認ください

生成AIによる
最適なモダナイゼーションへ

Fujitsu 資産分析・可視化サービス
powered by Fujitsu Kozuchi
ご紹介

2025年9月
富士通株式会社



1. 資産の全体把握



富士通独自技術によるスピーディな可視化

アプリケーション構成を分析し、スクリプト単位の階層で、スクリプト間の関連性を持ったアプリケーションの特性を地図形式で表現。
アプリケーション単位にアプリケーションレベルの優先順位を付与し、視覚的に把握できます。

ソフトウェア構成分析



アプリケーション資産の課題を関係者間で共通認識しながら、
モダナイゼーションの計画立案に活用できます。

モダナイゼーションに関する お問い合わせ・ご相談

Webでのお問い合わせ

お問い合わせフォーム

当社はセキュリティ保護の観点からSSL技術を使用しております。

ご不明な点やご要望などございましたら、
お気軽にお問い合わせください。

資料をダウンロード

Road to 3X

Modernization

富士通の豊かな知見を束ねた、モダナイゼーションが示す道
DX SX GXまで伴走します。